

# IFRS 導入をめぐる会計基準のグローバリゼーションに関する分析モデル

社会科学部 会計専門職専攻

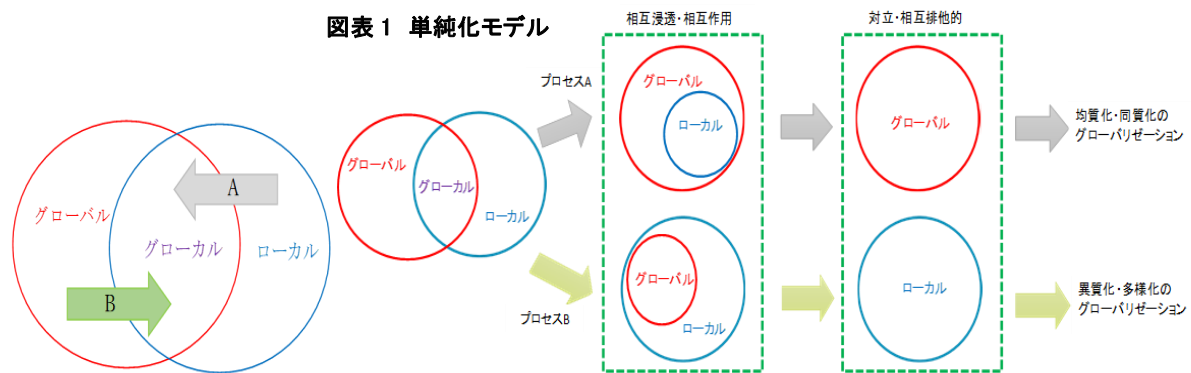
いのうえさだこ  
○教授 井上定子

## キーワード

IFRS, グローバリゼーション, 国際社会学, 会計基準

## 研究概要

現在、160 近くの法域で国際財務報告基準（IFRS）が会計基準として適用あるいは任意適用されている。ところが、IFRS への統一化というグローバルに向けた動向だけでなく、IFRS からの乖離あるいはローカル基準への回帰というローカルに向けた動向が同時に観察される。そこで、本研究では、国際社会学におけるグローバリゼーションに関する知見を援用し、IFRS 導入をめぐる相反する現象を包括的に解釈する分析モデルの構築を試みた。まず、先行研究としてグローバリゼーションを概念として理論的に検討している R. ロバートソン (R. Robertson)、彼の理論をさらに展開した G. リツア (G. Ritzer) と V. ルードメトフ (V. Roudometof) の理論を取りあげた。次に、彼らの理論をもとに単純化したグローバリゼーションの分析モデル (図表 1 参照) を導出し、さらにそれを IFRS 適用の状態や過程をあらわす、アドプション、コンバージェンス、エンドースメントという概念に着目して、会計基準のグローバリゼーションの分析モデル (図表 2) へと展開した。



**図表 2 会計基準のグローバリゼーションの分析モデル**

関係性の特徴 プロセスの 捉え方	相互浸透・相互作用 (グローカリゼーション)	対立・相互排他性 (グローバリゼーション)
IFRS 重視 (プロセス A 重視)	①【均質化指向のグローカリゼーション】 ローカル基準 → IFRS 最終的にローカル基準は消滅しない ⇒コンバージェンス	④【均質化グローバリゼーション】 最終的にローカル基準は消滅する  ⇒アドプション
ローカル基準重視 (プロセス B 重視)	②【異質化指向のグローカリゼーション】 IFRS → ローカル基準 最終的に IFRS は消滅しない ⇒エンドースメント	③【異質化グローバリゼーション】 【ローカリゼーション/ナショナリズム】 最終的に IFRS は消滅する ⇒ローカル基準のみ/IFRS のローカル基準化

## アピール ポイント

本研究は、国際社会学の知見を援用した学際的アプローチにより、複雑な会計基準のグローバリゼーションの動向を包括的に捉える分析モデルを構築した点に、その独自性がある。本研究により、会計基準の統一化（コンバージェンス）が今後どのように展開する可能性があるのか、そしてこれに伴い、自国の会計基準や IFRS の位置づけ、IFRS の設定主体である国際会計基準審議会（IASB）の役割が、どのような影響を受けるのかを考える上での手掛かりを示すことが期待される。